



餌の寄付2022年度まとめ



Donation of food Fiscal Year 2022



1年を通して寄付を受け入れて2シーズン目となった2022年度を2021年度と比べて振り返ります。

御協力いただいたのは**39**(前年比+2)の企業・団体・生産者の皆様で、前年度から引き続き御支援いただいたのは22の企業・団体・生産者で、約59.5%を占めています。

また、寄付していただいた餌の量は約**32t**(前年比+6t)で、そのうち剪定枝が約**13t**(前年比+2t)と約41%を占めています。なお、内容は**62**(前年比-15)品目(剪定枝は1品目としてカウント、樹種は**31**種(前年比+7))と、前年度に比べて品目は減少しておりますが、全体の寄付量並びに樹種は増加しており、取り組みは順調に進んでいると考えております。

直近3年間の飼料費の推移は、2022年:約5300万、2021年:約5100万円、2020年:約5700万円となっており、前年比+3.8%の△約**200**万円となりました。しかし、昨今の飼料費の高騰によって、いろいろな品目で1.2~1.5倍に価格が上昇していることを考慮すれば、寄付による飼料費の縮減効果は大きいと考えています。実際、寄付されたものを購入した場合の費用は約**1200**万円にのぼると試算しています。

なお、飼料購入量は、前年比▼約13.6%の**172t**、品目は▼8.5%の**98**となっておりますが、これは、寄付量の増加に加えて、給餌内容を見直し、牧草から乾草に切り替えたことやアマゾンほしい物リストの活用等が主な要因と考えています。

これらの成果は、継続して御支援いただいている皆様、そして、新たに御支援をいただいた皆様のおかげです。本当にありがとうございます。

来年度も引き続き、端材の有効活用や廃棄量の減量等、SDGsに貢献するとともに、新たな取り組みにも挑戦していきたいと考えております。

今後とも皆様の御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

凡例:▼マイナス、△プラス

| 御支援いただいた皆様 | (順不同、敬称略、昨年から継続) |
|---------------------|-------------------|
| 1 廣田造園 | 21 ヴィアンド株式会社 サカエ屋 |
| 2 青山豆十本舗 | 22 吉農園・ajes(吉澤) |
| 3 服部食品 | 23 大谷造園 |
| 4 タキイ種苗 | 24 宗忠神社 |
| 5 生産者(溝川) | 25 関西送配電株式会社 |
| 6 JA京都市 | 26 木村喜商店 |
| 7 大徳寺保育園 | 27 プロスペリティ株式会社 |
| 8 洛北造園 | 28 株式会社アグオル |
| 9 ファーストフーズ | 29 伊藤園 |
| 10 株)アドプランツコーポレーション | 30 生産者(長谷川) |
| 11 京都市立白河総合支援学校 | 31 フィットネスジム事業(岸本) |
| 12 フィールドソサイエティ | 32 満潮鮮魚 |
| 13 京都府漬物協同組合(大安) | 33 イオン京都西 |
| 14 嵯峨野地域農場づくり協議会 | 34 Kファーム |
| 15 DAVID OTTO JUICE | 35 クローバーリーフ |
| 16 京秀味 | 36 かじ正 |
| 17 大和学園京都調理師専門学校 | 37 西田造園 |
| 18 吉田山の里山を再生する会 | 38 植藤造園 |
| 19 京北こどす | 39 京都市中央卸売市場第一市場 |
| 20 京都市森林文化協会 | 京都中央市場青果卸売協同組合 |

年間の支援者数が前年度から微増となっておりますが、継続して御支援いただいている皆様と今年度から御支援をいただいた皆様の割合は拮抗しており、良い感じで推移していると考えています。

なお、新たに伊藤園様からは麦茶殻をいただき、それを食べるゾウの糞と餌とは別でいただいている緑茶殻を混ぜた堆肥を作り、出来た堆肥を茶畑の肥料として活用する循環プログラムを検討しており、餌の寄付を通して、その先の展開にもつながってきています。今後も皆様と互いに協力し、持続的に取り組んでいければと思います。



動物と人と地球 幸せな未来を 目指して